

# 造影剤使用によるMRI検査説明

## 造影剤の使用目的

造影剤とは診断に当たって情報量を増やすための検査用のお薬です。

目的臓器の血管の状態や血流状態、病気の部位の血流状態や特徴がわかり、画像診断上重要な情報となります。また、造影剤を使わなければ病気を見つけることができないことがあります。

検査を受けられる方は、造影剤に関して十分に理解していただいた上で造影剤使用の承諾をしていただきたいと思います。

## 造影剤の副作用の説明

造影剤使用において稀に副作用を生じることがあります。副作用の種類には次のようなものがあります。

① 軽い副作用(約100人に1人程度:1%程度)

血管痛、熱感、吐き気、嘔吐、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などです。

② 重い副作用(約10000人に1人程度:0.01%程度)

呼吸困難・意識消失・血圧低下・急性腎不全などで入院加療が必要となる場合もあります。

更に病状・体質によってごく稀に死亡例の報告があります。(約800000人に1人:0.000125%程度)

※アレルギー体質、喘息の既往のある方にはこれらの副作用の発生する確率が高くなります。

※造影剤は腎臓から排泄される為、腎機能の悪い方では更に悪化させることがあります。

※数時間から数日経過して発生する副作用もあり、発疹、発赤、吐き気、嘔吐、胸苦などの症状が現れる場合があります。

## 腎臓病のある患者さんについて

高度の腎機能障害や透析中の患者さんに本剤を投与すると、NSF(腎性全身性線維症)という重篤な副作用を発症しうるとの報告があります。このため原則としてこれに該当する患者さんにはこの検査を行いません。

## 食事制限

**検査予約時間の4時間前から、食事を取らないで下さい。**水分はお取り頂いて結構です。

## 副作用を防ぐために

① 検査終了後は、造影剤を速やかに体外に排出するため、十分な水分をお取りください。

② 授乳されている方は検査後、24時間は授乳を止めて下さい。

③ 検査をできるだけ安全確実にを行うために別紙問診票にお答えください。

※医師の判断で造影剤を使用しない場合がありますのでご了承ください。

## MRI検査室入室にあたり

① 強い磁場の中での検査となりますので、検査室内には金属類、時計、磁気カード、カイロ等持ち込めません。また、必要な場合は検査着に着替えていただきます。

② 心臓ペースメーカー、人工内耳を装着されている方はMRI検査を行えませんので必ず申し出てください。その他金属が体内に、または体外に外せない状態の金属がある方も申し出てください。

## 緊急時の対応

当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて検査を行います。

帰宅後、先に述べたような症状や、何らかの異常が現れた場合には下記にある連絡先までご連絡ください。

平日 8時30分から17時:徳山中央病院MRI検査室  
上記以外の曜日や時間帯:徳山中央病院 救急室  
電話:0834-28-4411